〔ベノミル水和剤〕

ベンレート®水和剤

農林水産省登録　第２０８８９号
性　　状：類白色水和性粉末 45μm 以下
毒　　性：普通物
危 険 物：—
有効年限：５　年
包　　装：100ｇ×60袋、333ｇ×20袋、500ｇ×20袋、5kg×２袋

有効成分：ベノミル …… 50.0%
その他成分：メチル=ベンゾイミダゾール－２－イルカルバマート …… 1.1%

殺菌剤分類　1

農薬ガイドの適用表内（＊）および各項目については、i-農力サイトの「製品情報」や「農薬ガイドを見る」から、「農薬ガイドの見方」をご参照ください。
本剤の最新情報：こちらの２次元バーコードを読み取ると i-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報がご覧になれます。

〔適用と使用法〕

作物名	適用病害虫名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
稲	ばか苗病 いもち病 イネシンガレセンチュウ	乾燥種籾重の0.5～1.0%	—	は種前（浸種前又は浸種後）	本剤：1回 ベノミル：2回（#1）	種子粉衣
	ばか苗病 いもち病	30～50倍				10分間種子浸漬
	イネシンガレセンチュウ	30倍				
	ばか苗病	500～1000倍				6～24時間種子浸漬
	いもち病					12～24時間種子浸漬
	イネシンガレセンチュウ	100～500倍				24時間種子浸漬
	いもち病	7.5～15倍	乾燥種籾1kg当り希釈液30㎖			種子吹き付け処理
稲（箱育苗）	苗立枯病（フザリウム菌）	500～1000倍	育苗箱（30×60×3cm使用土壌約5ℓ）1箱当り500㎖	は種時	本剤：2回 ベノミル：2回（#1）	灌注
	苗立枯病（トリコデルマ菌）			は種時1回又はは種時とは種7日後頃の2回		
		1000倍	育苗箱（30×60×3cm使用土壌約5ℓ）1箱当り1ℓ			
	いもち病	500～1000倍	育苗箱（30×60×3cm使用土壌約5ℓ）1箱当り500㎖	は種時～は種14日後まで		
		1000倍	育苗箱（30×60×3cm使用土壌約5ℓ）1箱当り1ℓ	は種時～は種7日後頃		
		育苗箱（30×60×3cm使用土壌約5ℓ）1箱当り1ｇ	—	は種前	本剤：1回 ベノミル：2回（#1）	床土混和

作物名	適用病害虫名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
かんきつ(みかんを除く)	貯蔵病害(白かび病)	4000倍	200～700ℓ/10a	前日	2回	散布
	貯蔵病害 (青かび病) (黒斑病) (軸腐病) (炭疽病) (緑かび病)	4000～6000倍				
	貯蔵病害 (青かび病) (黒斑病) (炭疽病) (緑かび病)	30倍	5ℓ/10a			無人航空機による散布
		60倍	10ℓ/10a			
みかん	そうか病 灰色かび病	2000～3000倍	200～700ℓ/10a		4回	散布
	貯蔵病害(白かび病)	4000倍				
	貯蔵病害 (青かび病) (黒斑病) (軸腐病) (炭疽病) (緑かび病)	4000～6000倍				
	貯蔵病害 (青かび病) (黒斑病) (炭疽病) (緑かび病)	30倍	5ℓ/10a			無人航空機による散布
		60倍	10ℓ/10a			
りんご	モニリア病	2000倍	200～700ℓ/10a		4回	散布
	黒星病・黒点病 褐斑病 うどんこ病 腐らん病 輪紋病 すす点病 すす斑病	2000～3000倍				
りんご(苗木)	白紋羽病	1000倍	―	植付直前	―	10～30分間根部浸漬
なし	胴枯病 黒星病 うどんこ病 輪紋病 心腐れ症 (胴枯病菌)	2000～3000倍	200～700ℓ/10a	前日	**本剤：4回** ﾍﾟﾉﾐﾙ：6回(#2)	散布
	枝枯病 胴枯病	20倍	―	3月～6月	**本剤：2回** ﾍﾟﾉﾐﾙ：6回(#2)	マシン油乳剤で希釈し塗布
かき	疑似炭疽病	2000倍	200～700ℓ/10a	前日	6回	散布
	落葉病 うどんこ病 炭疽病 すす点病	2000～3000倍				
もも	うどんこ病				3回	
	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病					

色掛けは2024年10月2日適用拡大

作物名	適用病害虫名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
ネクタリン	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病	2000～3000倍	200～700ℓ/10a	3日前	3回	散布
ぶどう	褐斑病 うどんこ病 灰色かび病 晩腐病	2000～3000倍		45日前	**本剤：3回** ベノミル：4回(#3)	
	黒とう病	2000倍				
	つる割病	200～500倍		休眠期	**本剤：1回** ベノミル：4回(#3)	
	枝膨病	200倍				
	晩腐病	200～500倍				
	芽枯病	2000倍		45日前	**本剤：3回** ベノミル：4回(#3)	
くり	実炭疽病	2000～3000倍		裂果前 但し14日前	4回	
おうとう	灰星病 褐色せん孔病	3000倍		3日前	2回	
キウイフルーツ	果実軟腐病 すす斑病	2000倍		7日前	5回	
びわ	灰斑病	2000～3000倍		14日前	3回	
	ごま色斑点病	2000倍				
うめ・あんず	黒星病 すす斑病	3000倍		7日前	1回	
ブルーベリー	斑点病 バルデンシア葉枯病					
いちじく	株枯病	1000倍	1～10ℓ/樹	30日前	5回	株元灌注
きゅうり	菌核病 灰色かび病 炭疽病 黒星病 つる枯病	2000～3000倍	100～300ℓ/10a	前日	**本剤：3回** ベノミル：4回(#7)	散布
	つる割病	1000倍	150～300mℓ/株	定植前～定植1ヶ月後		土壌灌注
うり類(漬物用)	炭疽病			定植前～45日前	**本剤：2回** ベノミル：3回(#4)	灌注
ミニトマト	萎凋病			定植前～定植1ヶ月後	**本剤：2回** ベノミル：6回(#5)	土壌灌注
	菌核病	2000倍	100～300ℓ/10a	前日	**本剤：3回** ベノミル：6回(#5)	散布
	葉かび病 灰色かび病	2000～3000倍				
トマト	萎凋病	1000倍	150～300mℓ/株	定植前～定植1ヶ月後	**本剤：2回** ベノミル：6回(#17)	土壌灌注

作物名	適用病害虫名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
トマト	菌核病	2000倍	100～300ℓ/10a	前日	本剤：5回 ベノミル：6回 (#17)	散布
	葉かび病 灰色かび病	2000～3000倍				
なす	半身萎凋病	500倍	200～300mℓ/株	定植後～14日前	本剤：3回 ベノミル：4回 (#8)	土壌灌注
		1000倍	400～600mℓ/株			
	黒枯病 灰色かび病	2000～3000倍	100～300ℓ/10a	前日		散布
	菌核病・褐紋病 フザリウム立枯病	2000倍				
甘長とうがらし	炭疽病					
たまねぎ	灰色腐敗病	2000～3000倍			本剤：6回 ベノミル：8回 (#13)	
	灰色かび病 黒かび病	2000倍				
	乾腐病	50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約5ℓ)当り500mℓ～1ℓ	定植前	本剤：1回 ベノミル：8回 (#13)	灌注
		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約5ℓ)当り500mℓ			
		20倍	—	移植直前		3分間苗根部浸漬
		1g/1kg培土		は種前		育苗培土混和
らっきょう		500倍		植付直前	1回	30分間種球浸漬
たらのき	芽枯症	1000倍		28日前		駒木瞬間浸漬
すいか	つる枯病 菌核病 炭疽病	2000～3000倍	100～300ℓ/10a	前日	本剤：5回 ベノミル：6回 (#6)	散布
メロン	菌核病				本剤：3回 ベノミル：4回 (#8)	
レタス	菌核病 灰色かび病 すそ枯病			14日前	本剤：4回 ベノミル：5回 (#10)	
はくさい	白斑病 菌核病			7日前	本剤：2回 ベノミル：3回 (#4)	
	炭疽病	2000倍				
キャベツ	菌核病 根朽病				本剤：6回 ベノミル：7回 (#9)	
ほうれんそう	萎凋病		3ℓ/㎡	21日前	本剤：2回 ベノミル：3回 (#4)	灌注

作物名	適用病害虫名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
アスパラガス	茎枯病・株腐病	2000倍	100～300ℓ/10a	前日	本剤：4回 ベノミル：5回 (#10)	散布
非結球あぶらな科葉菜類(みずな、チンゲンサイを除く)	炭疽病 白斑病	4000倍		21日前	本剤：1回 ベノミル：2回 (#14)	
みずな				14日前		
チンゲンサイ				7日前		
ねぎ	小菌核腐敗病	1000～2000倍		30日前	本剤：1回 ベノミル：3回 (#11)	
		500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60㎝、使用土壌約5ℓ)当り500㎖	定植前		灌注
	萎凋病 小菌核腐敗病	100～200倍	―	定植直前		5分間苗根部浸漬
		500倍				30分間苗根部浸漬
こんにゃく	乾腐病	50～100倍		植付前	1回	種芋の芽基部に散布
いちご	炭疽病	500倍		仮植前	本剤：1回 ベノミル：9回 (#12)	10～30分間苗根部浸漬
	萎黄病					1～3時間苗根部浸漬
	炭疽病 萎黄病		50～100㎖/株	育苗期	本剤：3回 ベノミル：9回 (#12)	灌注
			100㎖/株	本圃定植後但し、30日前	本剤：1回 ベノミル：9回 (#12)	
なたね	菌核病	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	3日前	2回	散布
しょうが	いもち病 褐色しみ病	1000倍		21日前		
てんさい	褐斑病	2000～4000倍			4回	
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、さやえんどうを除く)	立枯病	1000倍	3ℓ/㎡	発芽14日後まで	本剤：2回 ベノミル：6回 (#15)	灌注
	菌核病	2000倍	100～300ℓ/10a	30日前	本剤：3回 ベノミル：6回 (#15)	散布
えだまめ	菌核病・紫斑病					
さやいんげん	立枯病	1000倍	3ℓ/㎡	発芽14日後まで	本剤：2回 ベノミル：6回 (#15)	灌注
	角斑病 菌核病	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫開始14日前まで	本剤：3回 ベノミル：6回 (#15)	散布

作物名	適用病害虫名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
さやえんどう	菌核病	2000倍	100～300ℓ/10a	前日	**本剤：3回** ベノミル：6回(#15)	散布
	立枯病	1000倍	3ℓ/㎡	発芽14日後まで	**本剤：2回** ベノミル：6回(#15)	灌注
だいず	黒根腐病	乾燥種子重量の0.5%	―	は種前	**本剤：1回** ベノミル：5回(#10)	種子粉衣
	紫斑病・菌核病	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	前日	**本剤：4回** ベノミル：5回(#10)	散布
豆類(種実、ただし、だいず、いんげんまめ、えんどうまめ、らっかせいを除く)	菌核病			14日前		散布
いんげんまめ	菌核病			7日前		
	角斑病	1000～1500倍				
えんどうまめ	褐紋病・菌核病	1000～2000倍		14日前		
らっかせい	褐斑病 黒渋病	2000～3000倍		7日前		
	そうか病 茎腐病	2000倍				
小麦	うどんこ病	2000倍	60～150ℓ/10a	7日前	**本剤：2回** ベノミル：4回(#7)	
	赤かび病	2000～3000倍				
	雪腐病			根雪前	**本剤：1回** ベノミル：4回(#7)	
麦類(小麦を除く)					1回	
茶	炭疽病 白星病 輪斑病 褐色円星病		200～400ℓ/10a	摘採14日前まで		
	白紋羽病	1000～2000倍	―	―		苗木根部24時間浸漬
たばこ(苗床)	腰折病		1～3ℓ/㎡	は種及び仮植後	2回	散布
	黒根病	1000倍	2～3ℓ/㎡	仮植又は植付1～3日前まで		
西洋芝(ベントグラス)	葉腐病(ブラウンパッチ)	2000～3000倍	2ℓ/㎡	発病初期	6回	
桑	胴枯病	1000倍	100～300ℓ/10a	摘採9日前まで	2回	
	輪斑病	2000倍				
ばれいしょ	黒あざ病	種いも重の0.3～0.4%	―	植付前	1回	種いも粉衣

作物名	適用病害虫名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
かんしょ	黒斑病	種いも重の0.4%	―	植付前	本剤：1回 ベノミル：4回 (#19)	種いも粉衣
	基腐病	500～1000倍				30分間苗浸漬
	つる割病					20～30分間苗浸漬
	黒斑病					20～30分間苗基部浸漬
	つる割病		20～40㎖/株	挿苗時		株元灌注
	斑点病	1000倍	100～300ℓ/10a	7日前	本剤：3回 ベノミル：4回 (#19)	散布
さといも(葉柄)	乾腐病	種いも重量の0.5%	―	催芽前	1回	種いも粉衣
やまのいも	炭疽病 葉渋病	2000倍	100～300ℓ/10a	前日	本剤：3回 ベノミル：4回 (#16)	散布
パセリ	立枯病	1000倍	3ℓ/㎡	45日前	本剤：2回 ベノミル：3回 (#4)	灌注
わけぎ	萎凋病	500倍	―	植付前	1回	30分間種球浸漬
みょうが(花穂)	いもち病	2000倍	100～300ℓ/10a	3日前	3回	散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する
みょうが(茎葉)	いもち病	2000倍	100～300ℓ/10a	みょうが(花穂)の収穫3日前まで 但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで	3回	散布
みつば	菌核病	種子重量の0.5%	―	は種前	1回	種子粉衣
		500倍				24時間種子浸漬
ふき	葉枯病	2000倍	100～300ℓ/10a	7日前	2回	散布
つるむらさき	紫斑病			14日前	本剤：2回 ベノミル：3回 (#4)	
しそ(花穂)	菌核病			21日前		
ピタヤ	炭腐病		200～700ℓ/10a	14日前	2回	
せんきゅう	黒色根腐病	160倍	―	植付前	1回	30分間種球浸漬
かのこそう	半身萎凋病					30分間苗浸漬
とうもろこし	フザリウム菌による病害	乾燥種子重量の0.16%		は種前		種子処理機による種子粉衣
野菜類						
せんぶり	さび病	2000倍	100～300ℓ/10a	前日	本剤：12回 (#21) ベノミル：12回 (#21)	散布

作物名	適用病害虫名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
とりかぶと（薬用）	白絹病	種いも重量の0.4%	―	植付前	1回	種いも粉衣
しゃくやく（薬用）	根黒斑病	20倍			**本剤：1回** ベノミル：11回（#18）	10分間苗基部浸漬
		500倍				16時間苗基部浸漬
	灰色かび病	1000倍	100～300ℓ/10a	14日前	**本剤：10回**（#20） ベノミル：11回（#18）	散布
うど	菌核病	500倍	―	定植前	1回	30分間種株浸漬
オクラ	葉すす病	3000倍	100～300ℓ/10a	前日	**本剤：3回** ベノミル：4回（#8）	散布
セネガ	黒根病	1000倍	3ℓ/㎡	30日前	3回	灌注
カリフラワー	菌核病	2000倍	100～300ℓ/10a	7日前	**本剤：3回** ベノミル：4回（#8）	散布
ブロッコリー	根朽病					
	菌核病	2000～4000倍				
ズッキーニ		3000倍		前日		
	つる枯病					
かぼちゃ	白斑病	2000～3000倍				
ピーマン	うどんこ病 斑点病 炭疽病					
ばら	うどんこ病 黒星病			―	6回	
きく	白さび病	1000倍	100～300ℓ/10a	―	6回	散布
	黒斑病・褐斑病	2000～3000倍				
チューリップ	球根腐敗病	100～500倍	―	植付前又は貯蔵前	2回	15～30分間球根浸漬
		球根重量の0.1～0.2%				球根粉衣
		20倍		植付前		瞬間浸漬
シクラメン	萎凋病	500～1000倍	50～100㎖/鉢	―	3回	灌注
トルコギキョウ	立枯病（フザリウム菌）	1000倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60㎝、使用土壌約4～5ℓ）当り500㎖	定植前日	1回	
しゃくやくぼたん	根黒斑病	20倍	―	植付前	2回	10分間苗基部浸漬
		500倍				16時間苗基部浸漬
りんどう	花腐菌核病	3000倍	100～300ℓ/10a	―	6回	散布

作物名	適用病害虫名	希釈倍数または使用量	使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
パンジー	根腐病	2000倍	セルトレイ(60×30cm)1冊当り500mℓ	育苗期	2回	灌注
ゼラニウム	黒根病					
樹木類	ごま色斑点病 炭疽病 輪紋葉枯病		200～700ℓ/10a	発病初期	―	散布
いぬつげ	枝枯病				6回	

適用場所	作物名	適用病害名	10アール当り使用量		使用時期*	総使用回数*	使用方法
			薬量	希釈水量			
温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所	きゅうり	灰色かび病	150g	5ℓ	前日	**本剤：3回** ﾍﾟﾉﾐﾙ：4回 (#7)	常温煙霧
	トマト					**本剤：5回** ﾍﾟﾉﾐﾙ：6回 (#17)	

#1：種子への処理1回、床土への混和1回
#2：塗布2回、散布4回
#3：休眠期処理1回、散布3回
#4：種子粉衣1回、は種後2回
#5：種子への処理1回、土壌灌注2回、散布3回
#6：種子粉衣1回、は種後5回
#7：種子への処理1回、は種後3回
#8：種子粉衣1回、は種後3回
#9：種子粉衣1回、は種後6回
#10：種子粉衣1回、は種後4回
#11：種子粉衣1回、苗根部浸漬及び灌注は合計1回、散布は1回
#12：種子粉衣1回、苗根部浸漬1回、育苗期の灌注3回、本圃定植後の灌注1回、散布3回
#13：種子粉衣1回、育苗培土混和、灌注または苗根部浸漬合計1回、散布6回
#14：種子粉衣1回、散布1回
#15：種子粉衣1回、灌注2回、散布3回
#16：植付前までの処理1回、植付後3回
#17：種子への処理1回、土壌灌注2回、散布及び常温煙霧合計5回
#18：植付前までの処理1回、植付後10回（1年間に2回）
#19：植付時までの処理1回、植付後3回
#20：1年間に2回
#21：1年間に6回

⚠効果・薬害等の注意

●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
●水稲の種子消毒の場合は下記の注意を守る。
　○消毒前に塩水選を行う。
　○消毒後は水洗いせずに浸種又は播種する。
　○薬液の温度は10℃以下をさける。
　○粉衣処理では付着をよくするために予め種子を湿らせ（塩水選水切り後などが適当）湿粉衣する。
　○浸種後処理は種子が鳩胸の時期になるまでに行う。
　○本剤処理を行なった種子の浸種に当っては次の注意を守る。
　　・処理後、種籾を十分風乾してから行う。
　　・浸種は停滞水中で行う。
　　・種籾と水の容量比は1：2とし、水の交換は行わない。ただし、水温が高く種籾が酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。
●いもち病に対する本剤の育苗箱灌注処理は、本田で発生するいもち病に対しては効果が期待できないので注意する。
●薬剤が育苗箱からこぼれないように処理する。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷

くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさける。

●きゅうり、トマトに対して灌注処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、退色や生育抑制等の薬害を生じることがあるので、所定濃度を守る。

●たまねぎ、いちごに対して苗根部浸漬処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、いちごでは活着不良、たまねぎでは、初期生育遅延等の薬害のおそれがあるので、使用方法を厳守する。

●いちごの萎黄病防除に使用する場合、特に多発地では植付前の土壌くん蒸と本剤処理とを組み合わせるとより有効。

●こんにゃくの乾腐病防除に使用する場合は、種芋の芽基部を上に向けて並べ、散布液が芽基部に充分かかるように１㎡当り 100 ㎖散布する。

●麦類の雪腐病防除に使用する場合、散布は根雪近くに行う。

●なすの半身萎凋病に対して灌注処理する場合は、定植前及び定植時処理では葉の黄化、生育抑制等の薬害を生じるおそれがあるので定植後に処理する。

●りんごのモニリア病に使用する場合、多発条件下では効果が劣ることがあるので、発病初期に時期を失しないように散布する。

●なしの枝枯病、胴枯病に対してマシン油乳剤で希釈して塗布する場合は、病斑部及びその周辺に１～２回塗布する。なお、病斑部を削り取った後塗布する場合は木質部が見えない程度に表皮を薄く削る。
また、マシン油乳剤はベンレート水和剤に加用の登録のある剤を使用し、マシン油乳剤の注意事項を確認のうえ使用する。

●かんしょの基腐病に使用する場合は、苗全体が薬液に浸かるように処理する。

●桑の胴枯病に使用する場合の散布適期は９月上・中旬。

●ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意事項を守る。
○煙霧用として使用する場合は専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。特に常温煙霧装置の設定及び使用にあたっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
○作業はできるだけ夕刻行ない、作業終了後６時間以上密閉する。

●たばこ腰折病に対し親床で使用する場合は薬害を生じるおそれがあるので、希釈倍数は 2000 倍とし、散布量は１㎡当り１～２ℓとする。また、発芽期には使用しない。

●水耕栽培でトルコギキョウを栽培する場合には、廃液は環境中に流出しないように適切に処理する。

●本剤及び同系統の薬剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った例があるので過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる薬剤を組み合わせて使用する。

●本剤を使用した場合には、チオファネートメチルを含む剤を使用しない。ただし、種子への処理、種籾への処理および塗布処理を除く。

●本剤はエトフェンプロックス乳剤またはダイアジノン乳剤と混用した場合、凝固物を生成するため混用をさける。

●適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠安全使用上の注意

●本剤を無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守る。
○散布は各散布機種の散布基準に従って実施する。
○散布にあっては散布機種に適合した散布装置を使用する。
○散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行う。
○散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等に影響を与えないよう、散布地

域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意する。

〇散布終了後は次の事項を守る。

・使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄する。

・機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理する。

●本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗する。

●本剤は皮ふに対して弱い刺激性があるので皮ふに付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。

●使用の際は、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換する。

●作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。

●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

●常温煙霧中はハウス内へ入らない。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室する。

●街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

●本剤で処理した種子等は食料や動物飼料として用いない。

●水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。施設内に水産動植物を飼っている水槽等を置かない。

●無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないように特に注意する。

●使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

●浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

●直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

「農薬ガイドの見方（https://www.i-nouryoku.com/prod/search/農薬ガイドの見方.pdf）」の「３．注意事項：：(1)、(2)、(3)、(4)－C」も合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

●水稲・野菜・果樹などの幅広い作物に使用できます。

●茎葉の病害、貯蔵病害、種子伝染性病害、土壌病害など、多方面にわたり優れた効果を示します。

●耐雨性に優れ、降雨による影響を受けにくい薬剤です。